

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像	堺市立 泉北高倉小学校
人権意識を高く持ち、特別支援教育を通して、自己肯定感や他者への思いやりのある児童生徒の育成	校 長 川上 寛

令和6年度 重点目標
(1)自分も他者も大切にする心の教育の推進 (2)習得, 活用, 探求を工夫した深い学びの充実 (3)人権教育・障がい者理解を基盤とした個に応じた指導の充実 (4)学校群を核とした特別支援教育の推進

確かな学びの現状 本校では「泉北高倉スタンダード」のもと、落ち着いて学習できる環境づくりに取り組んでいる。児童も課題に対し真摯に取り組み、学習したことを理解し活かそうとする姿が伺える。しかし、各種調査において「相手意識をもって伝え合うこと」と「自分と違う意見について考えることは楽しい」という点にやや課題が見られる。自己の学習をより一層確かな学びと深い学びへと進化させるために、ペアやグループでの相手意識をもって伝え合う学習形態を取り入れ、友だちや先生との必然性のある対話をとおした授業づくりを推進していく必要がある。	豊かな心・健やかな体の現状 本校の児童は全体的に明るく素直で活動的であり、友だちにも優しく、困っている人を助けようとする姿も多く見られるようになっていいる。しかし、自尊感情や他者とのよりよい関係づくりに課題が見られる児童も少なくない。そのため、人権尊重を基盤とした教育を充実させ、豊かな人権感覚の育成を図ることが求められる。 一方、児童の体力は低下傾向にある。生涯にわたり健康に過ごす身体づくりのためにも、体育的行事などの学校教育活動をとおり、体を動かすことに親しみ楽しむ機会を設け、基礎体力向上の取り組みを推進していく。
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (11月)	達成状況(年度末)					
								自己評価		学校関係者評価			
確かな学び	基礎基本の定着	事実的な知識の習得と知識の概念的理解の育成	知識・技能の習得・育成のため、児童の理解と進度に応じた学習課題の提示	平均正答率が全国、本市より上回る。	全国学力・学習状況調査 堺市学力・学習状況調査	年度末	概ね良好	○	○	国語の平均正答率は全国、本市ともに上回った。算数は堺市調査でわずかに下回ったが、全体では概ね良好である。	○	学習参観での授業のようすがとても良い。このことからこの評価でよいと判断できる。	
			家庭で行うオンライン学習の習慣化	宿題を含む家庭学習を、オンラインで月1回以上行う	実施状況			○	○	2学期より毎月1週間、持ち帰り週間を設け実施した。オンライン学習の習慣化にはまだ至っていない。	○		
	授業改善	たがいの意見のよさとちがいを生かした、みんなでわかる授業づくり	●考えたり判断したりしたことを、相手意識をもち、わかりやすく伝え合い、聴き合う授業づくり	「国語・算数の勉強は好きですか」肯定回答率80%以上	学校教育自己診断		○	概ね良好	○	○	「国語・算数の勉強は好きですか」 国語81.2％、算数79.2％ 肯定回答率80.2％となり、良好である。	○	各項目の肯定回答率を判断基準とみれば、この評価でよいと思われる。
			前単元でわかったりできたりしたことをふりかえり、生かすことができる学習課題の提示	「国語・算数の授業はわかりやすい」肯定回答率85%以上	学校教育自己診断		○		○	「国語・算数の授業はわかりやすい」 国語87.7％、算数90.9％ 肯定回答率89.3％となり、良好である。	○		
			考えたことをまとめたり、学習のふりかえり書いたりする十分な時間の確保	「この授業でわかったことや気づいたことをノートにまとめた」肯定回答率80%以上			○		○	「この授業でわかったことや気づいたことをノートにまとめた」肯定回答率85％となり、良好である。	○		
	豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	人権尊重を基盤とした教育の充実による、豊かな人権感覚の育成	●学校教育全体を通じて、豊かな人権感覚を醸成するための授業づくりおよび授業改善	「人の気持ちができる人間になりたいと思うか」肯定回答率80%以上	学校教育自己診断	年度末	概ね良好	○	◎	「人の気持ちができる人間になりたいと思うか」の肯定回答率が98％となり良好である。	◎	▽年度当初より地域であいさつをする子が増えている。友だち同士で他を思いやる行動もみられる。下級生のことを考え、自分の気持ちを表現できる子もいる。 ▽いじめの対応をしてくれるについては一定評価できる。いじめが0であることをめざし、目標は100％であってほしい。 ▽保護者アンケートの記述からも一定評価できる。
				自他ともに尊重できる心情の涵養を図れるよう、係、委員会活動、縦割り活動など、互いのよさを認め合える活動の実施	「人の役に立つ人間になりたいと思う」肯定回答率が80%以上		年度末		○	◎	「人の役に立つ人間になりたいと思う」の肯定回答率が95％となり良好である。	◎	
				●安心して暮らせる環境づくりで未然防止に取り組む。年3回以上の「いじめアンケート」を実施するとともにSC、SSWを活用した迅速な対応	「先生は、いじめなどわたしたちが困っていることに対応してくれる」肯定回答率80%以上		毎学期 必要に応じて行う		○	◎	「先生は、いじめなどわたしたちが困っていることに対応してくれる」の肯定回答率が97％となり良好である。	○	
		体力向上	運動することの楽しさを感じ、自ら活動しようとする意欲の醸成	体育の授業に加え、体育的行事等とおした運動意欲の向上(かけ足・短なわ)	「外で遊んだり運動したりなど、体を動かすことが好きだ」肯定回答率80%以上		年度末	概ね良好	○	○	・体育授業に加え、体育参観、連合運動会(6年)、駆け足といった体育的行事に取り組んだ。 ・「外で遊んだり運動したりなど、体を動かすことが好きだ」の肯定回答率が85％となり概ね良好である。	○	駆け足記録会で子どもたちが一所懸命に走っている姿が見られた。競争ではなく、自己の目標に向かい記録を伸ばそうとする取組が評価できる。
学習課題と内容および運動量が保障された、楽しさを実感できる活動				○		○							
地域協働		信頼される学校	家庭、地域、中学校区との連携協力で、信頼される開かれた学校づくり	学校ホームページや校報、ほけんだより等を活用し、本校および中学校区のエデュケーションの現状と成果等の発信	「子どもの様子を、ホームページや学年通信などで知ることができる」肯定回答率80%以上	学校教育自己診断	年度末	概ね良好	○	◎	「子どもの様子を、ホームページや学年通信などで知ることができる」の肯定回答率が94％となり良好である。	◎	▽各項目の肯定回答率を判断基準とみれば、この評価でよいと思われる。 ▽支援学級の交流等、学校群での取組が評価できる。 ▽地域活動と教育が、防災をとおり連携できる可能性が見えた。
				★特別支援教育を軸にした教育活動を推進する学校群連携					「保護者や地域の人々と話をする機会を適切に設けている」肯定回答率80%以上	○	◎	「保護者や地域の人々と話をする機会を適切に設けている」の肯定回答率が86％となり概ね良好である。	

校長より(年度末) 児童は落ち着いた環境で真摯に学習に取り組み、明るく素直で思いやりのある姿勢を見せている。一方で課題は、対話的な学びの充実、自尊感情の醸成、よりよい関係づくり、自他の大切さを表現できる力である。次年度は、ペアやグループでの対話を重視した授業展開により相手意識を育み、人権教育の充実により自尊感情を高める。児童が互いの違いを認め尊重することのよさを実感するとともに、心身ともに健やかに成長できる安全安心な教育環境づくりに取り組む。	学校関係者評価者から(年度末) コロナ禍で小学校を訪問する機会が途絶えていましたが、今年度は何度か学習参観等の行事にご案内いただき、ありがたかったです。先生方の明るさとがんばりにエールを送ります。
--	---